

既存データを混構造データに変換する方法

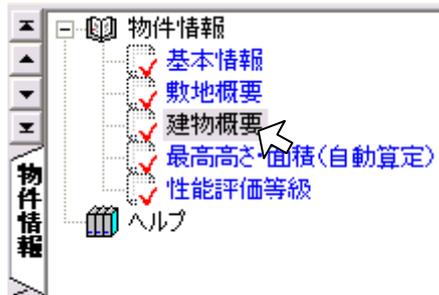
※もとのデータをどのように入力したかによって、操作が変わってきます

A: もとのデータを木造で入力した場合 (この場合、2階建てまでに限ります)

B: もとのデータを混構造として入力した場合

Aの変換方法

(1) 建物概要の入力



物件情報タブの建物概要をダブルクリックします。

① 建物規模

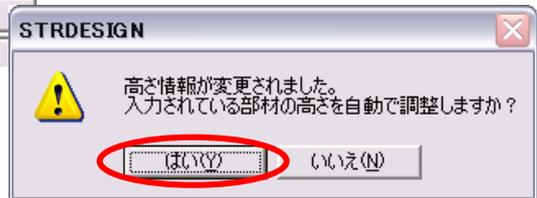
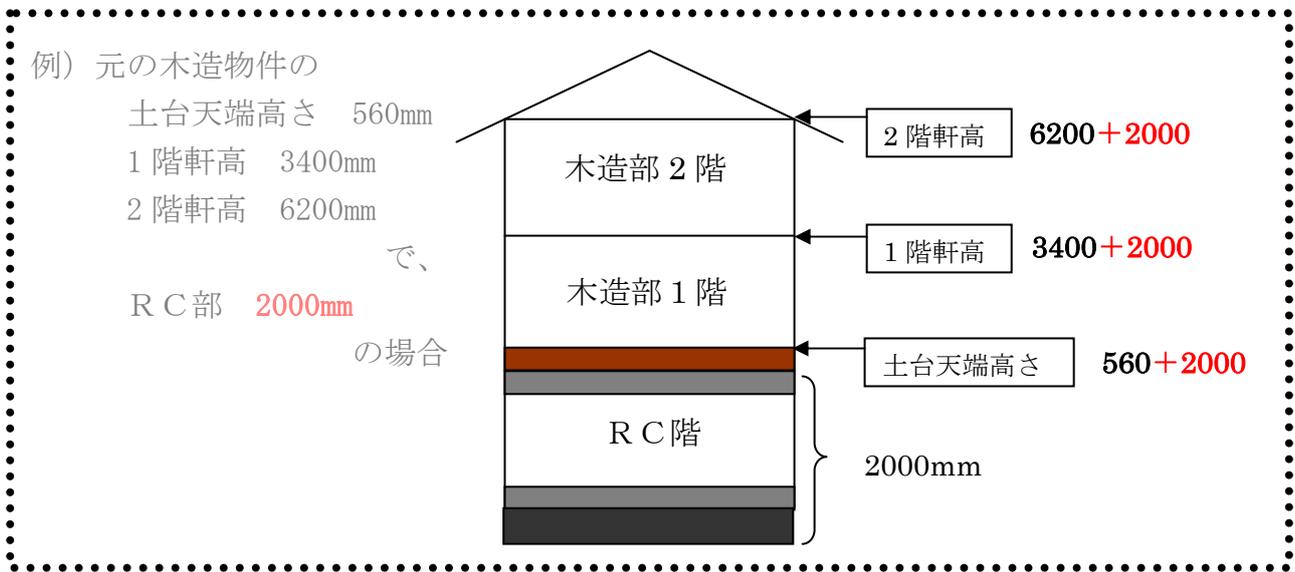
項目	内容
建物階数(木造)	2 - 2階
主要用途コード	8010
主要用途	一戸建ての住宅
建物規模	5 - 地上1階部RCの地上3階建混構造
工法	1 - 地上1階建 2 - 地上2階建 3 - 地上3階建
基本モジュール	21 - 地上2階建(一部平屋) 31 - 地上3階建(一部平屋) 32 - 地上3階建(一部2階建)
標準の屋根勾配	4 - 地上1階部RCの地上2階建混構造 41 - 地上1階部RCの地上2階建混構造(一部平屋)
垂木ピッチ(mm)	5 - 地上1階部RCの地上3階建混構造 51 - 地上1階部RCの地上3階建混構造(一部平屋) 52 - 地上1階部RCの地上3階建混構造(一部2階建)
軒の出(mm)	6 - 地上1階部S造の地上2階建混構造 61 - 地上1階部S造の地上2階建混構造(一部平屋)
ケラバの出(mm)	7 - 地上1階部S造の地上3階建て混構造 71 - 地上1階部S造の地上3階建て混構造(一部平屋)
1階軒高(mm)	72 - 地上1階部S造の地上3階建て混構造(一部2階建て)
2階軒高(mm)	
3階軒高(mm)	
土台天端高さ(mm)	
基礎高さ(mm)	

建物概要のプロパティで、建物規模のダウンリストから適切なものを選択します。
(混構造に変換するので「地上1階部RCの～」の中から選びます)

- ② 1階軒高の変更
- ③ 2階軒高の変更(木造2階建ての場合)
- ④ 土台天端高さの変更

項目	内容
建物階数(木造部)	2 - 2階
主要用途コード	8010
主要用途	一戸建ての住宅
建物規模	4 - 地上1階部RCの地上2階建混構造
工法	0 - 在来軸組工法
基本モジュール(mm)	910
標準の屋根勾配	50.00
垂木ピッチ(mm)	-455.00
軒の出(mm)	455.00
カラバの出(mm)	455.00
1階軒高(mm)	3400.00
2階軒高(mm)	6200.00
3階軒高(mm)	9000.00
土台天端高さ(mm)	560.00

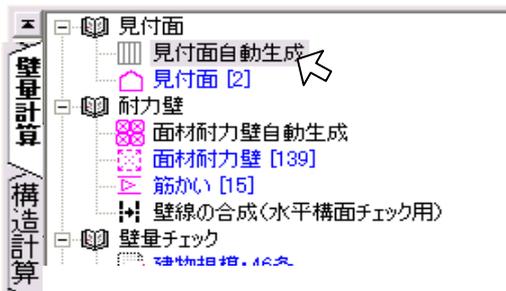
木造物件で設定してある軒高に、+〇〇mm (RC部の高さ) します。



更新ボタンをクリックすると、

「高さ情報が変更されました。入力されている部材の高さを自動で調整しますか?」というメッセージが出るので、「はい」をクリックしてプロパティ画面を閉じます。

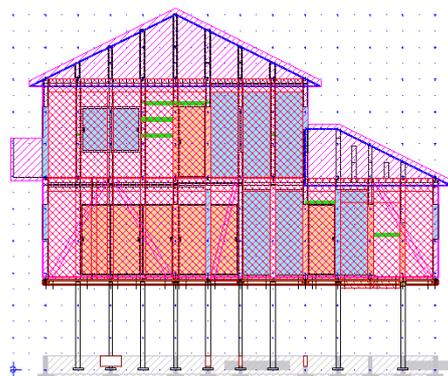
➡ 軒高を変更したことによって、既に入力していた図面の「見付面」がずれてしまうので、見付面の再作成を実行します。



1 : 壁量計算タブの見付面自動生成をダブルクリックします。



2 : 見付面自動生成のプロパティで実行ボタンをクリックします。

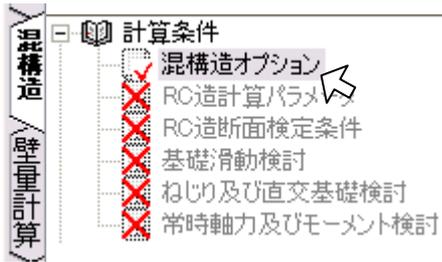


3 : 正確な位置に見付面が作成されます。

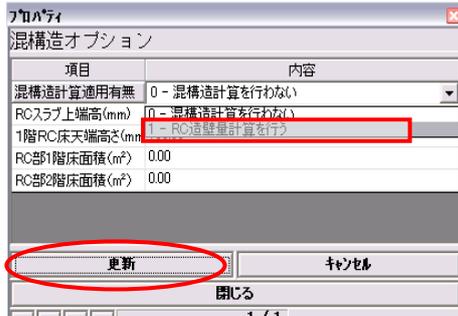
注意) 立面の形状によっては正しく見付面が生成されない場合があります。その場合は、“見付面”で手入力してください。



(2) 混構造オプションの入力

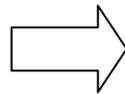


混構造タブの、混構造オプションをダブルクリックします。

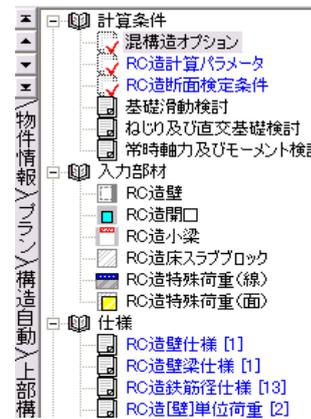


① 構造計算適用有無

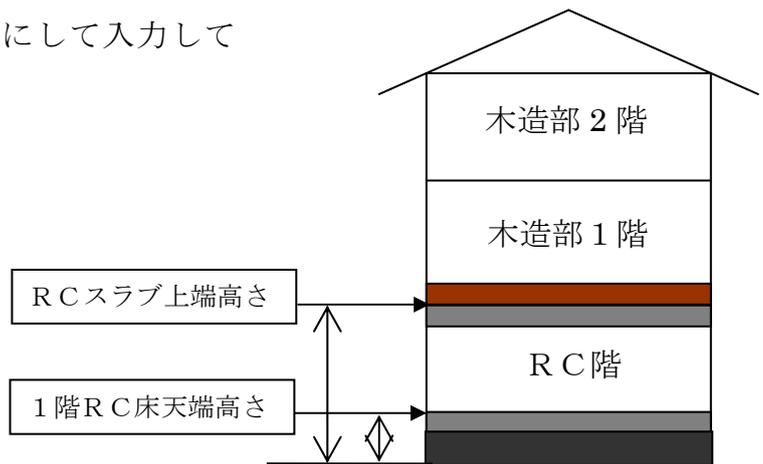
混構造オプションのプロパティで、混構造適用有無の「1-RC造壁量計算を行う」を選択、更新ボタンをクリックします。



入力できなかった項目が入力可能になります。



- ② RCスラブ上端高さ
 - ③ 1階RC床天端高さ
- 右図を参考にして入力してください。



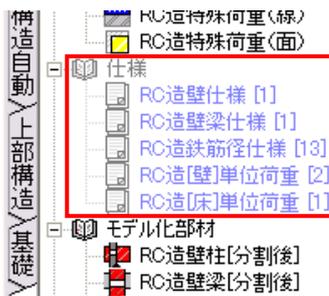
※RC部1階床面積は、基礎スラブを入力すると自動的に算出されます（自動算出値は負の値）

（べた基礎でなく布基礎の場合は、RC部2階床面積と同じ値になります）

※RC部2階床面積は、RC造床スラブを入力すると自動的に算出されます（自動算出値は負の値）

(3) 各項目の設定

①仕様



左記の例の様に、既に入力されていればOKです。
もし入力されていなければ、既存のデータから追加
インポートします。下記にその手順を記します。



【追加インポート】

- 1 : ファイル から追加インポートを選択します。
- 2 : 「ファイルを開く」ダイアログで、Templateフォルダにある“混構造テンプレート V14.csv”を開きます。
- 3 : 「インポート情報の選択」画面で、インポート情報一覧から“(インポート情報を使用しない)”を選択し、「次へ」ボタンを押下します。
- 4 : 「追加インポート情報の設定」画面で、追加したい項目の操作欄のダウンリストから、適した操作を選択します。
- 5 : 次へ ボタンをクリックします。
- 6 : 完了 ボタンをクリックします。

②計算条件

③入力部材

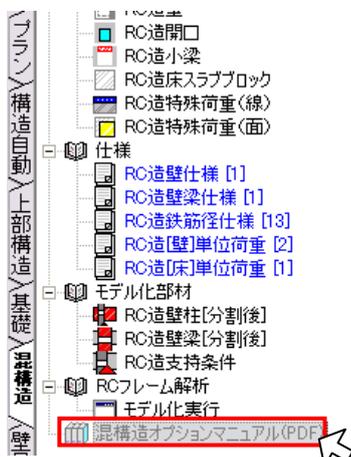
④基礎の入力

※元のデータで入力した基礎は、RC部の重さを考慮していないので、RC部を入力後に再入力します。

⑤モデル化実行

⑥構造計算

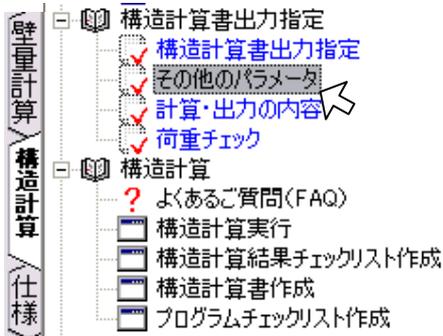
上記項目②～⑥の詳細については、「混構造オプションマニュアル」を参照してください。



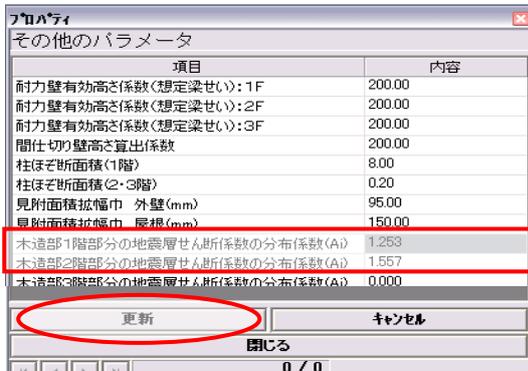
Bの変換方法

(1) 地震層せん断係数の分布係数 (A_i) の変更

RC部を入力するとA_i値は自動的に算出されます。自動で求めるために、値を0に変更します。(A_i値が入力されていると、構造計算時にはその値が採用されます)



①構造計算タブの「その他のパラメータ」をダブルクリックします。



②「木造部1階(2階)部分の地震層せん断係数の分布係数(A_i)」を0.000にして、更新ボタンをクリックしプロパティ画面を閉じます。

- (2) 混構造オプションの入力
- (3) 各項目の設定

} Aの変換方法と同様です。
手順を確認してください。

[参考]混構造オプションマニュアル

第2章 入力

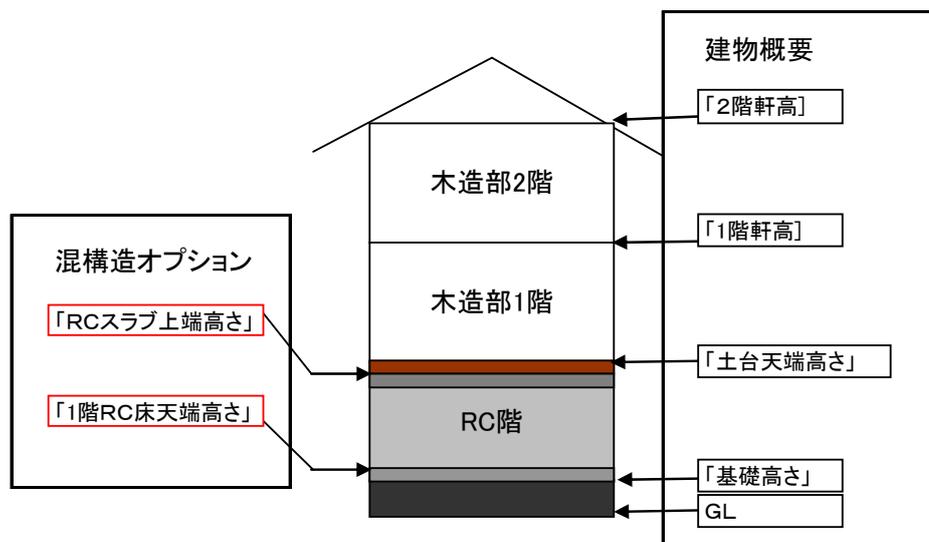
2.1 計算条件

2.1.1 混構造オプション

混構造オプション

項目	指定内容
混構造計算適用有無	RC造壁量計算を行う
RCスラブ上端高(mm)	3240.00
1階RC床天端高さ(mm)	450.00
RC部1階床面積(m ²)	-115.99
RC部2階床面積(m ²)	-120.28

- (1) 混構造計算適用有無
混構造RC壁量計算の有無を選択します。
- (2) RCスラブ上端高(mm)
ルーフ部のRC造床スラブ上端高を設定します。入力するRC造壁の上端高となります。
- (3) 1階RC床天端高(mm)
入力するRC造壁の下端高となります。
- (4) RC部1階床面積(m²)
負の値は基礎スラブを入力したときの自動算出値です。正の値を入力すると、その値が採用されます。
※布基礎の場合は2階と同じ値が自動設定されます。
- (5) RC部2階床面積(m²)
負の値はRC造床スラブを入力したときの自動算出値です。正の値を入力すると、その値が採用されます。
※片持ちのRC造床スラブはバルコニー・廊下・庇とみなし、当該面積の1/2の面積が自動加算されます。



高さ設定について